

しかし、そのうちに反対派から交換条件が妥協案として出され、この問題にピリオドが打たれます。

妥協案とは「野付牛神社を現在地から高台の場所(現在の寿町にある裁判所のある辺り)に移すこと、更にこれを屯田神社として寄付すること、公園の名称はそのまま保持すること。」でした。

「北見市派」議員の二・三人の異論もありましたが、伊谷や大槻繁次郎(当時の商工会会頭)などが中に入って、反対派の交換条件を飲むことにしたといわれています。

かくて45年間親しまれた「ノツケウシ」が消え「北見市」の誕生となりました。

## ● 市名改称問題後日譚

1、市制業務は滞りなく進展しましたが、野付牛神社の移転は遂に現実を見ず終わります。

時、正に大東亜戦争の真っ只中、戦時体制の中で神社の敷地も決まらぬままウヤムヤになってしまいました。

野付牛公園の名は約束どおり残され、野付牛神社は北見神社と改称されています。



▲大正15年頃の野付牛神社

2、妥協案が守られなかったことで議員の間からは多少のクレームはありましたが、市制は順調に施行されていきますが、網走からクレームがきました。

明治5年、網走郡内に八ヶ村が成立し、網走村戸長が置かれていました。

明治14年網走村に市街地を区画し、北見町が成立。

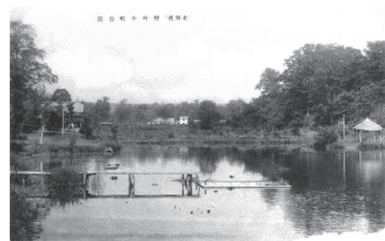
明治33年北見町外八ヶ村戸長役場が設置されていました。

明治35年北見村・網走村・勇仁村・新栗履村が合併して二級町村網走町が誕生しています。

この合併に際して新町名を北見町の北見と、網走村の網走のどちらかにするか話題になり、結局網走町となりました。

このような経緯があっただけに、野付牛を北見市としたことに「わが町のかつての町名を、勝手に使用するとは何事だ。」という不満が聞こえたといえます。

正式の申し入れがあったわけではないので、自然にその話は消滅しています。



▲昭和初期 野付牛公園

3、市名改称問題の中で「北美」の案も出たそうです。